

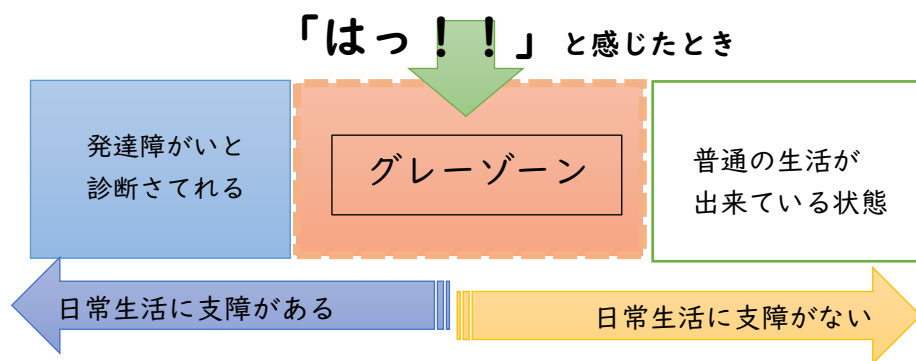
基本の受験指導システム

◇学齢期における発達障がいと診断された児童・生徒の対応

- ① 読み書きが苦手・暗記が苦手・文章読解ができない → 発達性学習症
- ② 日常生活の動作がぎこちない・不器用さがある → 発達性協調運動症
- ③ こだわりが強い・好きことに没頭する → 自閉症スペクトラム
- ④ 長時間座ってられない、集中力がない → 注意欠如・多動症

◇グレーゾーンと呼ばれる児童・生徒の対応

「発達障がいの特性がいくつか認められるが診断基準を満たさない状態」



- ① 学力の定着が人より時間がかかる（通常学級の授業進度についていけない）
- ② 好き嫌いの差が大きい（興味がない教科はやらない）
- ③ 人との関わりがスムーズにいかない

◇対策・カリキュラム

*本人の症状など状態の把握

- ① 本人アセスメント：本人課題の把握
- ② 個別指導計画作成（長期目標と短期目標）：具体的対応を考える
- ③ 実践 → 結果検証
 - ・ 上手くいっていない場合：改善・改良
 - ・ 上手くいっている場合：継続 or 次のステップへ

*家庭で出来る対応（両親の覚悟が必要です）

◎対応の初期段階（忍耐から始まります）

- ① 最初はまず忍耐（親）
- ② 我が子に寄り添う覚悟をつくる
- ③ 家庭内では両親で対応できる空気をつくる

◎日常生活での対応

- ① 子どもの話を聞く → 本人の気持ち、行動様式を分かってあげる
- ② 否定的なことばは少なめに、分かりやすく伝える（=しつけ）
- ③ ほめる（行動・言動に改善が見られたとき）
- ④ 相談できる場所や施設をつくる「はっと！！」感じた時が相談のタイミング

◇家庭ではいけない対応

※知らず知らずにお子さんを傷つけていませんか？

過保護 何でも親がやってしまう



自分で出来る事は自分でやらせる

<多くの例>

- ① 本人がやる前に親がやってしまう
- ② 失敗しないように先々の事を考えてしまう

過干渉 何でも親が決めてしま

※進路や今やるべきことを親が決めてしまう

- ③ 親の望むことを子どもに強いる
- ④ 子どもの時間割を率先して親が用意する
- ⑤ 子どもの遊び友達を親が選ぶ
- ⑥ 子どもの進路先、就職先を親が勝手に決める

※上記の①～⑥で2つ以上思い当たる場合、すぐに M-Lab にご相談下さい

◇M-Lab の対応

(エム・ラボ)

発達障がいのある方の正確な診断は専門家と1年以上生活を共にして初めて本人状況や傾向が分かってきます。外見上の判断や勝手な予測、決めつけは避けなければならないと考えます。

前提

～家庭における本人の進路について～

本人の問題や課題の解決には少々時間と日数がかかります。

問題解決、課題解決において、まず何を優先するかはご本人の状況によって決定します。

基本対応

- ① Wisc-IV (知能検査) の受診→結果は指導対応の参考になります。
- ② 気づいたときにすぐ相談する → 親の立場「あれ？」と思う時
 - ・出来ない事を無理にやらない、やらせない
 - ・出来るところからスタートする。
 - ・少しでも達成感、満足感を味合わせる
 - ・達成感を体験することから始める

◇M-Labの実践トレーニング

1, 学習課題 例：文字が書けない

※どこに課題・問題があるかを分析した上でトレーニングを実践

例：学校で実施されるテスト（中学の定期試験）の問題
やり方・理解力・集中力・日常生活など

- ① なぞりがき
 - ・ 運筆練習
 - ・ 集中力の向上
- ② タブレット学習
 - ・ 映像視聴
 - ・ 視覚的優位の有効
- ③ ビジョントレーニング
 - ・ 視覚機能の向上
 - ・ 識字障がいの治療

《取得授業例》

A : 生活リズムからトレーニングに参加する

- ① 1日のトレーニング時間が 1.5h ⇒ 週3日 1.5h × 3日間
- ② 1日のトレーニング時間が 2.0h ⇒ 週2日 2.0h × 2日間

18.0 h /

※継続することが大切

2, コミュニケーション能力の向上

- ※ 人と話すのが苦手
- ※ すぐにイライラしてしまう

S S T (ソーシャルスキル・トレーニング)

「話す」「聞く」「伝える」力を育む

=すべての子どもに育みたいスキル=

- ① 友達づくりのスキル
- ② 相手に気持ちを伝えるスキル
- ③ 自分の気持ちを伝えるスキル
- ④ 感情をコントロールするスキ



これができたら
L S T (ライフスキル・トレーニング)
日常生活をスムーズに送れるようにする練習

= 指導の取り組み例 =

人間関係スキルアップ：ストレスマネジメント
認知・行動・情動のエクササイズ

※ 「なんとなく」身につけていくものを「意図的に」身につける



- ・ 自然体で友だちをおしゃべりができるようになる
- ・ トラブルの対処ができるようになる
- ・ 「勁い心」が育つ

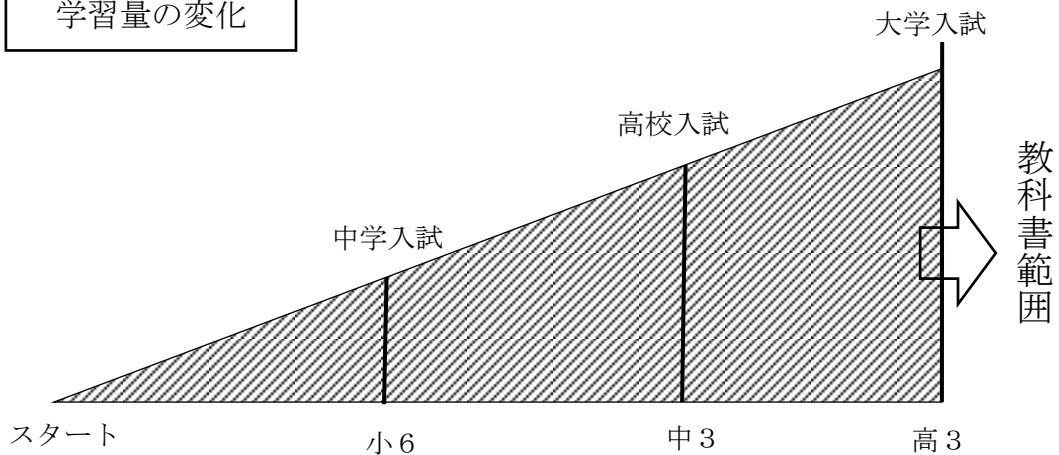
《取得授業例》

・週1回 2.0h

3, 受験指導

- ① 5教科型学習
 - 1, 県立受験型
 - 2, 私立推薦型/県立特色選抜型
 - 3, 私立単願型
- ② 得意教科・得意テーマを伸ばす
- ③ 自分の特性を活かした自分流の学習法を見つける
 - ・聴覚優位…耳で聞いて覚える
 - ・同時処理優位…図解を利用して覚える など
- ④ 15分間学習法
 - ・机に向かい 15分間は自分なりに取り組む習慣を身につける

学習量の変化



《取得授業例》

・週3日 1回 1.5h × 3日 4.5h 18.0h/月
・週2日 1回 2.0h × 2日 4.0h 16.0h/月

4, 社会人/学生 (大学・専門学校) サポート

実践行動カリキュラムで職場や学校生活に活用

- ① 職場・学校生活での悩みや不安の軽減
- ② SST (ソーシャルスキル・トレーニング)
- ③ LST (ライフスキル・トレーニング)

対面式及びリモート相談

《取得授業例》

- ・月 1回 1回 2.0h
- ・月 2回 1回 2.0h×2 4.0h

◇M-Lab スケジュール例

		火	水	木	金	土
M-Lab 学習課題 コース	週 3日 (18.0H/月)	○		○		○
	週 2日 (18.0H/月)		○		○	
M-Lab 受験指導 コース	週 3日 (18.0H/月)	○		○		○
	週 2日 (16.0H/月)		○		○	
M-Lab 高校生コース		○		○		
M-Lab 社会人・学生サポート						○